

「グリ下応援団」の名称と構成員について

【グリ下実務者会議の名称について】

「グリ下応援団」

・「対策」「支援」といったワードを使うと、ネガティブスタートのイメージや、行政主導の制度・施策・事業による対応となっていくイメージを与える

・官民連携しながら方向性を共有していくにあたり、包括的かつポジティブにベクトルを合わせながらの協働が期待できる

・「実務者会議」は当初知事が意見交換会・取材対応の中で用いられた表現で、「実務者」の定義にかかる認識の共有が困難

今後、「グリ下応援団」第〇回会議という体裁の表記とします

【グリ下応援団の構成員について】

資料2-2のとおり

(行政機関)

当初構成員を基本としつつ、必要性が生じた際には構成員の追加変更やオブザーバー機関の招集等について座長が柔軟に判断し、実効性のある議論を目指す

(地域団体)

地元商店街・地域における活動の情報共有や地元意見の紹介等、本会と地域との連携を担っていただく

- ・道頓堀商店会
- ・戎橋筋商店街振興組合
- ・中央地区BBS会(更生保護制度の民間協力者)

(支援団体)

グリ下に集まる若者への支援を民間ベースの自主活動として継続されている団体・個人に参画いただく

- ・NPO法人D×P(アウトリーチ活動・ユースセンター運営)
- ・田村健一弁護士(商店会等と連携しグリ下で支援活動)